



I 第3週の発生動向 (2026/1/12~2026/1/18)

- インフルエンザについては、上北保健所管内で**警報**が継続しています。一方、三戸+八戸市保健所管内の**警報**は**解除**となりました。定点当たり報告数は減少傾向にあります。引き続き新型コロナウイルス感染症の予防も兼ねて、ワクチン接種を含めた基本的な感染対策の徹底をお願いします。
- 水痘については、東津軽+青森市保健所管内の**警報**は**解除**となりました。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」です。最終ページに掲載しています。

II 第3週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

■は警報、■は注意報、「空欄」：患者報告無し。

	東青 (東津軽+青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週からの増減
	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性呼吸器感染症	46	4.18	38	3.80	92	9.20	21	3.50	99	11.00	17	2.83	313	6.02	-56
新型コロナウイルス感染症	8	0.73	17	1.70	32	3.20	13	2.17	30	3.33	11	1.83	111	2.13	16
急性呼吸器感染症	652	59.27	292	29.20	393	39.30	256	42.67	356	39.56	258	43.00	2207	42.44	-119
小児科															
RSウイルス感染症	2	0.33	6	1.00			14	2.80					22	0.65	17
咽頭結膜熱			2	0.33									2	0.06	-2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	0.50	6	1.00	12	1.71	2	0.40	5	0.83	4	1.00	32	0.94	-6
感染性胃腸炎	20	3.33	21	3.50	52	7.43	21	4.20	12	2.00	2	0.50	128	3.76	19
水痘	2	0.33	1	0.17	1	0.14	1	0.20	1	0.17			6	0.18	-19
手足口病															0
伝染性紅斑															-3
突発性発しん	4	0.67	1	0.17	3	0.43			1	0.17			9	0.26	1
ヘルパンギーナ	1	0.17											1	0.03	0
流行性耳下腺炎															-1
眼科															
急性出血性結膜炎															0
流行性角結膜炎															0
基幹															
感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
クラミジア肺炎															0
細菌性髄膜炎															0
マイコプラズマ肺炎							1	1.00			4	4.00	5	0.83	1
無菌性髄膜炎															0

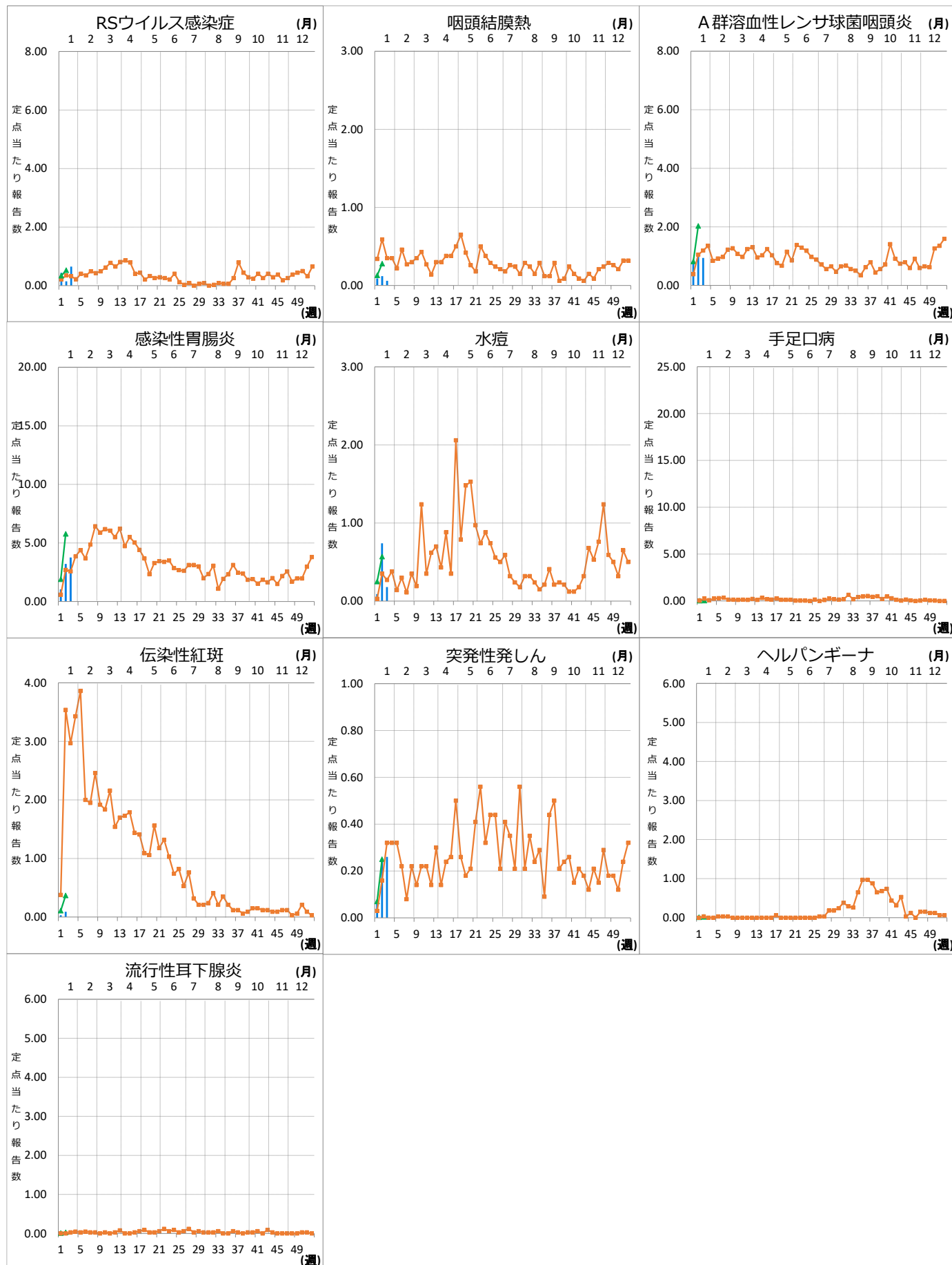
III 定点把握対象疾患週別推移 (急性呼吸器感染症定点) (2026年第3週、ただし全国は前週)

グラフの説明: 〇は2026年青森県、■は2025年青森県、▲は2026年全国



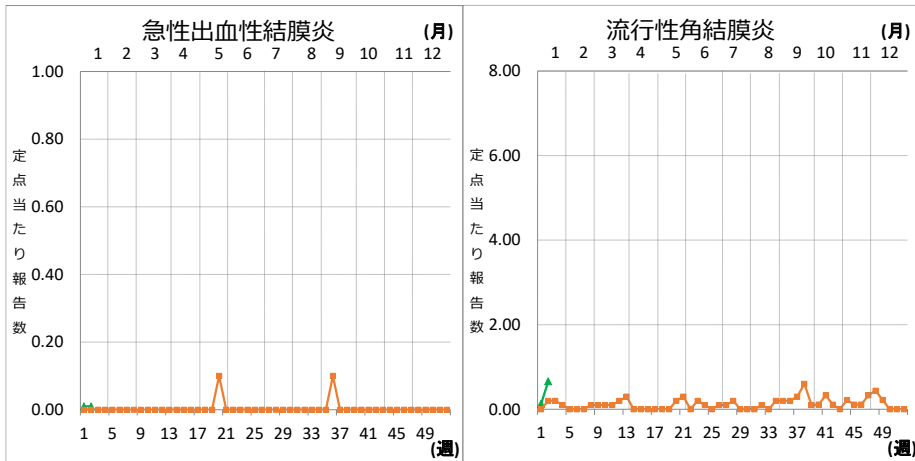
IV 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2026年第3週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



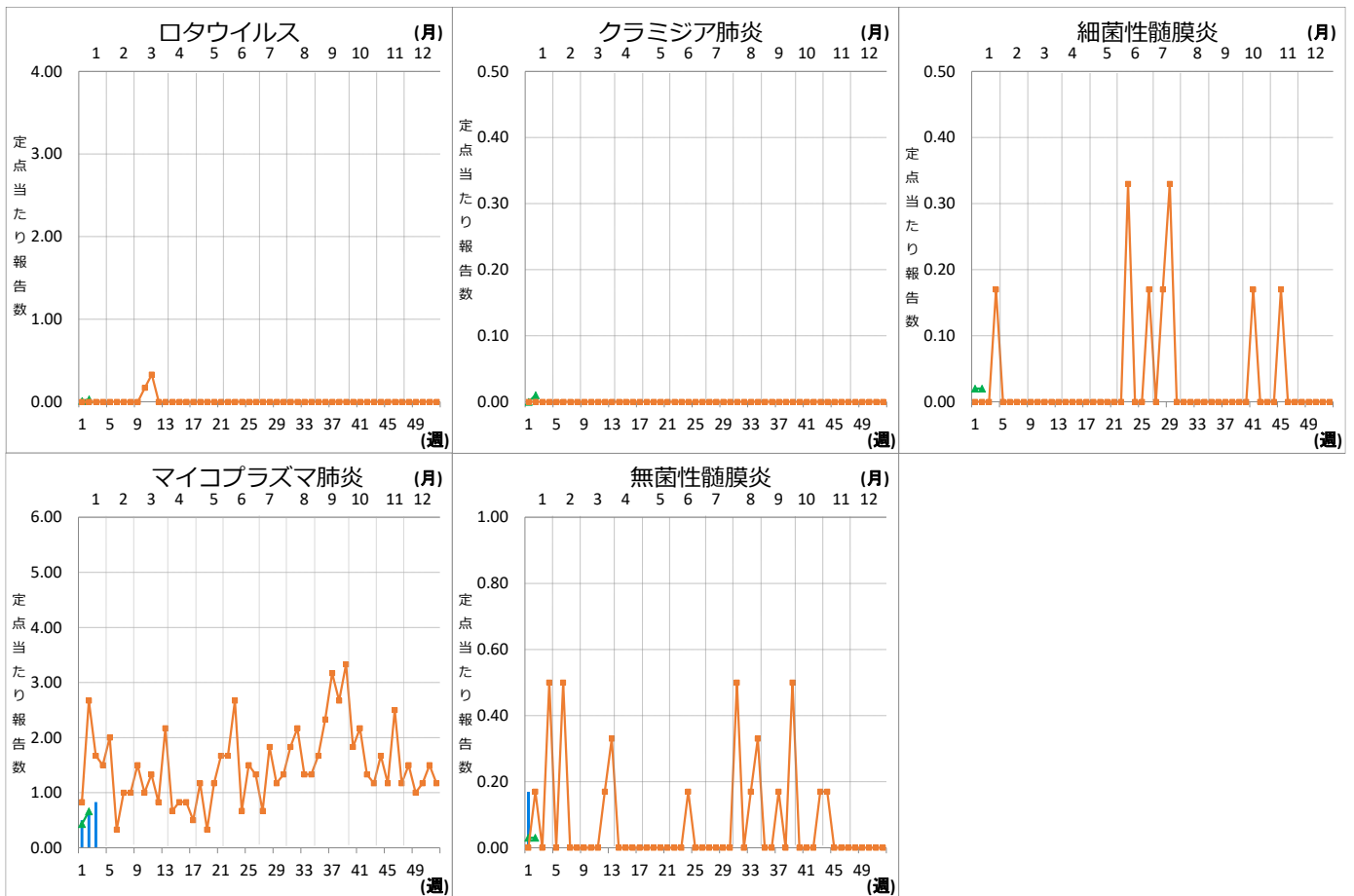
V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2026年第3週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2026年第3週、ただし全国は前週）

グラフの説明 は2026年青森県、 は2025年青森県、 は2026年全国

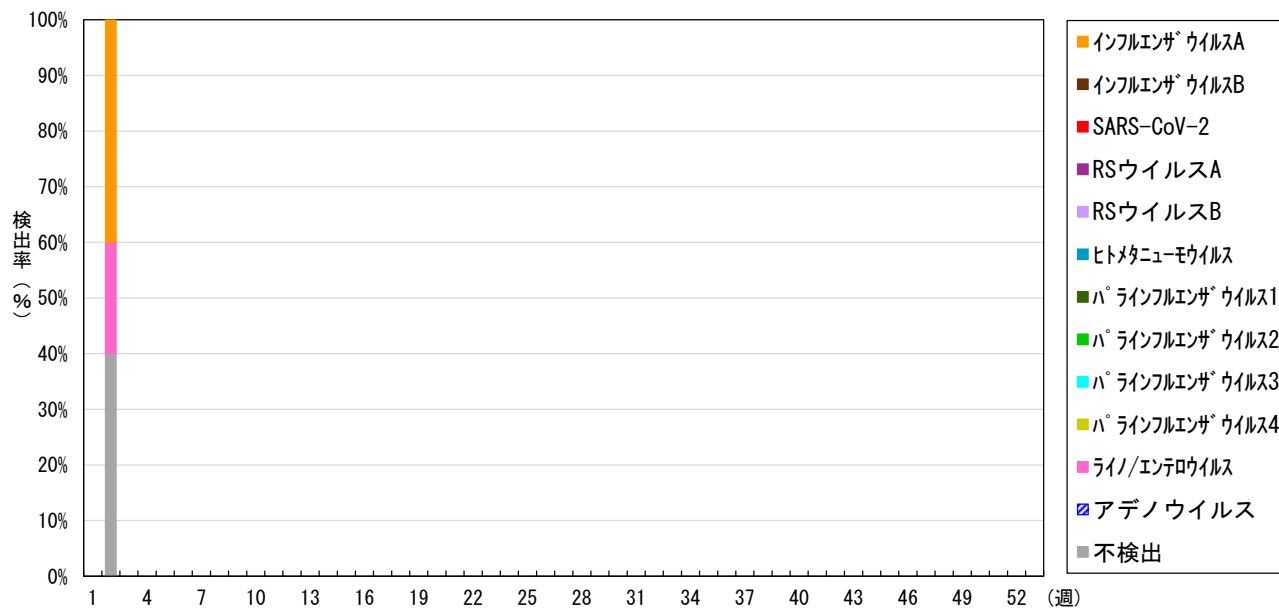


Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2026年第1週～)

急性呼吸器感染症	2026年							
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週
提出検体数	0	5	9					
インフルエンザウイルスA	0	2						
インフルエンザウイルスB	0	0						
SARS-CoV-2	0	0						
RSウイルスA	0	0						
RSウイルスB	0	0						
ヒトメタニューモウイルス	0	0						
パラインフルエンザウイルス1	0	0						
パラインフルエンザウイルス2	0	0						
パラインフルエンザウイルス3	0	0						
パラインフルエンザウイルス4	0	0						
ライノ/エンテロウイルス	0	1						
アデノウイルス	0	0						
不検出	0	2						
検査待ち	0	0	9					

(2) 検出された病原体の週別推移 (2026年第1週～)



Ⅶ 全数把握対象疾患発生状況（第3週）

- ・結核（二類感染症）：八戸市1人、上北2人、下北1人 (2026年計： 5人)
- ・水痘（入院例）（五類感染症）：青森市1人、八戸市2人 (2026年計： 4人)

Ⅷ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025年第52週～2026年第3週）

週	東青 (東津軽保健所+ 青森市保健所)	中南 (中南保健所)	三八 (三戸保健所+ 八戸市保健所)	西北 (西北保健所)	上北 (上北保健所)	下北 (下北保健所)
52	結核1人 梅毒2人 百日咳1人			梅毒1人		カルバペネム耐性 腸内細菌目細菌感 染症1人 百日咳1人
1						
2	劇症型溶血性レン サ球菌感染症1人 百日咳1人	侵襲性インフルエ ンザ菌感染症1人 侵襲性肺炎球菌感 染症1人	結核1人 水痘(入院例)1人		腸管出血性大腸菌 感染症1人	
3	水痘(入院例)1人		結核1人 水痘(入院例)2人		結核2人	結核1人

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2026年第1週～第2週までの累計）

分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	エムポックス	重症熱性血小板減少症候群	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	レジオネラ症
累積報告数	258	48	7	2	1	1	11	6	1	81
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症
累積報告数	8	4	20	1	10	1	3	50	14	1
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	麻しん
累積報告数	17	2	98	26	204	5	4	4	336	1

青森県（2026年第1週～第3週までの累計）

分類	二類	三類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	百日咳
累積報告数	5	1	1	1	1	4	1

XI 病原体検出情報

報告はありませんでした。

XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2026年第3週

報告はありませんでした。

2026年報告件数及び症者数

施設種別	月(週)	1月					2月		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (施設別)
		1週	2週	3週	4週	5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45-48週	49-52週		
介護・老人福祉関係施設	件数	1	0	0															1
	発症者数	15	0	0															15
児童・婦人関係施設等	件数	0	1	0															1
	発症者数	0	23	0															23
障がい関係施設	件数	0	0	0															0
	発症者数	0	0	0															0
その他施設	件数	0	0	0															0
	発症者数	0	0	0															0
計(月別)	件数	2																	2
	発症者数	38																	38

感染症の窓

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）は、溶血性レンサ球菌（いわゆる溶連菌）による感染症で、初期症状として、腕や足の痛みや腫れ、発熱、血圧低下などがみられます。発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、発病後数十時間以内には軟部組織壊死や多臓器不全等を引き起こし、ショック状態から死に至ることもあります。A群溶血性レンサ球菌が主な原因菌ですが、その他B群、C群、G群の溶血性レンサ球菌も原因菌となります。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の青森県における報告数の推移は図のとおりです。2024年の報告数は16件で、直近10年間で最多となりました。年齢区分別では、60歳以上の報告が多くを占めていますが、20歳代、30歳代の報告や、近年は妊産婦の症例も報告されていることから、全ての年齢区分で本疾患に注意する必要があると考えられます。

感染経路が不明な場合も多くありますが、飛沫感染、接触感染のほか、傷口からの感染等に注意が必要です。劇症型溶血性レンサ球菌感染症の原因である溶血性レンサ球菌に有効なワクチンはありませんが、本疾患に限らず、多くの感染症の予防には、手指衛生や咳エチケット、傷口の清潔な処置といった基本的な感染防止対策が有効です。けがをした際、傷口の腫れや痛み、発熱等、感染の兆候が見られたら、直ちに医療機関を受診しましょう。

○詳しい情報はこちらをご覧ください。

👉 [劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）（厚生労働省 HP）](#)



劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）

